



はらだ
原田てつよ議員

食物アレルギーのある子どもへの対応の現状は

議員 子どもの命と安全を守るため①食物アレルギーと危険性についての教職員等の正しい理解②緊急時の対応等の研修会③子ども同士の理解やつながり④保護者の相談体制の確立の4点を要望しているが、現状をたずねる。

教育長 ①対象児童・生徒のいる全ての学校(園)で研修を行うことになっており、対象者がいない場合も必要に応じ行うようお願いしている。また、笠岡市保育協議会等が主催の研修会にも先生方が参加している。学校医とも連携しながら研修を進める。②外部機関と連携し研修を行い、マニュアルも作成し緊急時の対応を整えている。③教育を通して多種多様な個性を認め合い、支え合うことができるよう集団づくりに取り組んで



いる。④アレルギー対応委員会を公務分掌に位置付け、体制を整えている。保護者への情報発信も工夫するよう学校を指導していく。

議員 浅口には、食物アレルギーサークルがあり保護者との情報共有やフォーラム等も行っている。井笠地域として連携はとれないか。

教育長 まずはフォーラムに担当者等を派遣し情報収集したい。

コミュニティナースの取り組みへの考えは

議員 高齢化の進む本市において、コミュニティナースの取り組みを行う考えはないか。

市長 地域の中で専門性や知識を生かして地域コーディネーターとして活動する役割を担う医療人材は必要と考える。先進地の事例を参考に研究していく。



ふじいよしあき
藤井義明議員

言語道断 市長のあるまじき態度

議員 9月補正予算案にある笠岡湾干拓地臭気対策事業費464万円について、議会に1回も説明がない。具体的な説明を求めます。

産業部長 臭気を特定するための基礎調査、臭気の測定を行う委託料等を計上している。それらの結果をもとに、原因の特定と改善のための対策を検討、実施していく。

議員 市長は、市民や議会とも話し合いをしていると言いながら、このような態度を取り続けている。反省していただきたい。市民・議会も交えて臭いの抜本的対策の協議をしていただきたいと思うが、お考えをたずねる。

議員 多くの市民から干拓の臭いに係る抜本的対策のための協議会設置の陳情書を議会にいただいた。そこで、市長へ協議会設置の要請書を提出したにもかかわらず、市長は受け取る気配を見せなかった。

副市長 市民の意見も取り入れ、議会と共に考えていかなければならないのは基本である。

この様な態度は言語道断であり、市長にあるまじき行為だと思ふ。その場におられた副市長はどうお考えかたずねる。

議員 全部丸投げして任せるのであれば、(委託料の)400万円は、私は無駄だと思っている。

